

福岡工業大学
教育開発推進機構

NEWS LETTER

VOL.4



CONTENTS

機構長メッセージ	1
機構の取組	2
質保証	6
2025年度の主なFD活動	7



1. 機構長メッセージ

教育開発推進機構は、「学生の学びと成長を中心に据えた教育の実現」を目指し、本学における教育改革および教育の質保証を推進する中核的組織として、その役割を果たしてまいりました。

2025年度は新たなディプロマ・ポリシーに沿った教育実践の推進、カリキュラムの充実、産業界との連携による教育の高度化など、さまざまな取組を進めてきました。

また、学生アセスメントの分野では、学生自身が学びを振り返り、主体的・自律的な学修へとつなげていくための仕組みづくりに力を入れ、学生の成長を「見える化」し、教育改善へと循環させる取組を進めています。

加えて、教育の質保証の観点からは、教育点検や学生によるカリキュラムレビュー、学生参画型の教育支援活動などを通して、教職員と学生が協働しながら教育を捉え直す機会を積み重ねてきました。

本冊子では、2025年度に実施した主なFD活動についてもご紹介しています。今後も教育開発推進機構は、教職員の皆さま、そして学生の声に耳を傾けながら、本学の教育の質向上と新たな価値創出に向けて取り組んでまいります。引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

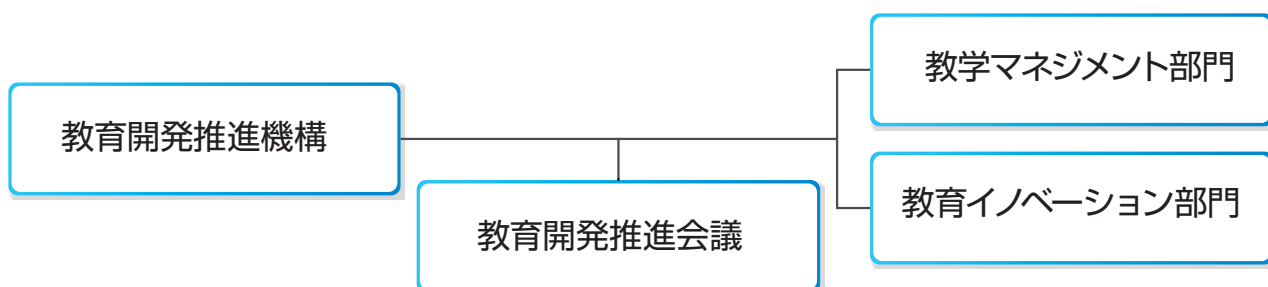


教育開発推進機構長

前田 洋

教育開発推進機構について

教育開発推進機構では、教育の質保証、教育能力の開発および向上、教育プログラムの開発およびその支援の取組を実行し、新たな教育改革・改善活動等を全学的に推進しています。機構にカリキュラム等の教育の質保証および質向上を所轄する「教学マネジメント部門」と教育改革の方針に係る企画立案およびその実施に関することを所轄する「教育イノベーション部門」を設置し、新たな教育改革・改善活動を推進しています。



¹ FD(Faculty Development)とは、本学における教育内容および方法を改善し向上させるための組織的な諸取組です。

2. 機構の取組

【教育改革】

新DPに沿った教育の実践と革新

本学は「デジタル力を備えた実践型人材」の育成を目指し、建学の理念と社会のニーズを踏まえて新たな全学ディプロマ・ポリシー（DP）を策定しました。DPは測定可能な要素に分解し、正課・課外を通じて育成する共通コンピテンシー（FIT力）として明示しています。2025年度新入生オリエンテーションでは、DPとコンピテンシーをキャラクター化した「学びの羅針盤」リーフレットを用い、副学長講義と先輩学生のパネルディスカッションを通して学びのイメージを伝えました。

DP1



幅広い教養



専門知識・技能

幅広い教養と専門性を身に付け、
社会で活用することができる

DP2



ライフデザイン力



メタ認知・実現力

自ら学ぶ意欲を持ち、目標を設定して
振り返りながら主体的に学びに
向かうことができる

DP3



グローバルマインド



未来構想力

多様な他者と協働し、グローバル社会*の
課題に新たな解を生み出すことができる

*グローバル化する地域社会の課題を含む

DP4



デジタル力



発信力

情報を的確に整理・分析し、
自らの考えを伝えることができる



カリキュラム

*横断科目の開講

2025年度から新設した横断科目として、「Future Vision講座（Python基礎とデータ処理入門）」と「Future Vision実践（SDGs探究）」の2科目を開講しました。Python講座は履修希望者が100名を超え、抽選で30名が受講するなど高いニーズが明らかになりました。SDGs探究は福岡未来創造プラットフォーム加盟校へのオープン科目として単位認定を行い、他大学の学生6名を含む20名が履修し、異なる背景の学生が協働して課題解決に取り組む学びを実現しました。

◆「Future Vision講座（Python基礎とデータ処理入門）」

《科目の目的・授業概要》

本科目は、自身の将来ビジョンに基づき、自己成長のプロセスを意識しながら実社会の多様なテーマを学び、幅広い知識やスキルを身につけることを目的としています。2025年度は「Python基礎とデータ処理入門」をテーマとし、データサイエンスやAIに興味を持つ初心者向けの入門科目として開講します。Pythonを用いてCSVやExcelなどの表形式データを基本的に扱えるようになるスキルの習得を目指します。

◆「Future Vision実践（SDGs探究）」

《科目の目的・授業概要》

本科目は、学科で学んだ知識を結び付けながらグループワークで課題解決に取り組み、課題探究能力を高めることを目的としています。2025年度は「SDGs探究」をテーマとし、17の目標を学んだ上で、与えられた課題に対し学科の学びを生かして施策を検討しました。最後に全体発表会を行い、多様な意見を共有することで課題探究能力の向上につなげました。



*数理・データサイエンス・AI教育プログラム

デジタル時代に求められる基礎力として、「数理・データサイエンス・AI」の重要性が高まっています。文部科学省は、これらの力を社会全体で育成するため、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」（AI戦略2019）を推進しています。

本学では、この制度に基づき、リテラシーレベルの全学共通科目として2022（令和4）年度に

「AIデータサイエンス基礎」を開講しました。また、より専門的な学びを深める応用基礎レベル教育プログラムを整備し、2023（令和5）年度に工学部・情報工学部、2025（令和7）年度に社会環境学部で導入し、全学に展開しています。

さらに、2025年4月には本科目の修了者に対し、紙の修了証に代えてオープンバッジを発行しました。このバッジのデザインは在学生が制作しました。



インダストリー教授制度の導入

新DP推進の一環として、教職員の意識改革と社会と接続した教育機会の創出を目的に、2025年度から「福岡工業大学インダストリー教授」制度を導入しました。この制度では、企業や産業界で実務経験を持つ人材を非常勤講師やゲストスピーカーとして招聘し、学生に最新の業界動向や実践的な知識を提供することで、実務的教育、産学連携、キャリア形成支援、教育内容の充実が期待されます。

Pick up

インダストリー教授として日本初のデジタルバンク株式会社「みんなの銀行」の頭取を迎え、金融DXの最前線に関する特別講義を実施しました。学生は同銀行の模擬データを使い、データ分析とビジネス視点を踏まえた新サービスの企画に約10週間取り組みました。社員からの指導や中間発表を経て、最終回では選抜4グループが成果を発表し表彰されました。本取組は産業界の知見を教育に融合し、実践的な人材育成を目指しています。



学生アセスメント

*学びの振り返りアンケート

学生の成長度の総括的評価を測り、次期の授業計画、カリキュラム改善、組織的FD活動（学部PDCA）に役立てること、また、学生が学修の振り返りの機会とし、次期履修者が学生の評価やコメントを履修計画の参考とすることを目的に学びの振り返りアンケートを実施しています。各期第13～14週目に実施し、全開講科目（卒研、ゼミⅢ、集中講義を除く）を対象としています。全学DP策定に伴い、名称を「学びの振り返りアンケート」と改訂し、シラバスに記載された達成目標を引き込むことで、各授業で設定したDPの達成度について振り返りを行う構成としています。

*学生の主体性育成と自律的学修の習慣化

本学では、学生が自ら学びを調整し主体的に学ぶ力を身につけるため、学期ごとの目標設定と振り返りを通じて自律的学修の習慣化を目指しています。新入生には入学直後のセミナーで目標設定を行い、2年生には動画を用いた振り返りと目標設定を実施しています。さらに、学習成果や課外活動を記録・振り返るツールとしてFIT-AIM（学習ポートフォリオ）を導入し、成長の実感や課題発見を促しています。授業での振り返りに活用する科目もあり、今回の全学ディプロマ・ポリシー策定に合わせ、学修成果やDP推移、自己評価、アセスメントテスト等が反映されるようにシステム改修を行いました。

また、個人的目標と福工大生としての社会的目標を達成するために必要な自己調整力（目標設定・行動計画・振り返り）と、成長を促すフィードバック・リテラシーを育成する新科目「自己成長と学び」を2026年度より開講します。学生が自分の学修姿勢を多角的に捉え、論理的に言語化する力を身につけることを目標とし、講義では動機づけの仕組みやロジカルシンキングも学び、前後期を通じてFIT-AIMへの記録などを行いながら、自己調整を継続的に実践することを目指します。



*アセスメントテスト(PROG テスト)の導入

2025年度からアセスメントテスト（PROGテスト）を導入し、学生が自身の強み・弱みを可視化し、振り返りに活用できるようにしています。新DPの実施に合わせ、入学から卒業までの学びを評価する場面を整理しましたが、上級生への受験促進などには課題が残っています。また、評価データは蓄積されつつあるものの、それが学生の成長（アウトカム）にどう結びつくかの分析について検討中です。今後は多面的なデータ収集やインタビューを通じて、入学から卒業までの学修のストーリーを明らかにし、改善につなげていく予定です。

Pick up

FIT-プレセミナー

11月15日（土）総合型選抜の合格者を対象に、「FIT-プレセミナー」を開催いたしました。FIT-プレセミナーは、入学後に本学での学びや活躍のイメージを持ち、入学までのモチベーション維持・不安軽減を図ることを目的とし、開催しました。当日のプログラムでは、「本学での学び」に関する講義、「学びの振り返り」と「目標設定」に関するワークショップや「大学生活のイメージ」を紹介する先輩学生プレゼンテーションなどを実施しました。



【質保証】

*教育点検

本学の教育点検活動は、大学が定める3つのポリシーが適切であり、かつそれに基づいて教育が機能しているかを確認し、学生が確実にディプロマ・ポリシーを達成できるようカリキュラムをマネジメントすることを目的としています。大学・学部学科・授業科目・学生の各レベルで学修成果を点検し、その結果を教育改善や学生の成長に活かします。点検結果を踏まえ、学科長・学部長・機構長らが対面で意見交換を行い、助言を文書でフィードバックしています。また、点検結果をもとに新DPの検討や科目フロー整備などの改善を進め、数年単位で施策を評価するプログラムレビュー導入も検討中です。

また、本学の教育の「質保証」の一環として、学生が本学の教育改善に参画をする取り組みを実施しています。学生によるカリキュラムレビュー、学生FD（FIT-join）や学生授業サポート制度（TA/SA/CS）の活動を通じて、本学の教育内容、学習環境、学習支援に関する改善、提案、授業支援を行い、本学の教育改善への学生参画を図っています。

*学生によるカリキュラムレビュー

2024年度から試行している学生によるカリキュラムレビューは、卒業予定者が4年間の学びを振り返り、履修したカリキュラムを評価・提案することで、教育改善と自身の成長につなげることを目的としています。2025年度は、DP達成度の把握とカリキュラムレビューを行ったうえで、学生が関与度一覧表やカリキュラム・マップの修正案を提案しました。

*FIT-joinの活動

本学の学生FD組織「FIT-join」は、教員・職員・学生が協力して授業改善に取り組む活動を行っています。学生アンケートで授業や大学生生活の不安・改善点を調査し、分析結果をもとに教員との意見交換で改善提案を行っています。2025年度は「つながりがある学生ほど学校生活が充実するのではないか」という仮説のもと、人や環境とのつながりを調査し、学生生活を充実させるための提案をまとめました。



*学生授業サポート制度

本学では、大学院生と学部学生が授業をサポートする活動を行っています。大学院生はTA、学部学生はSAとして実験・実習科目や演習科目で教員と共に受講生を支援し、教育効果を高めています。また、学部学生がCSとしてアクティブ・ラーニングを行う演習科目や講義科目でグループ学習やピアラーニングを支援し、受講生同士の協力と学び合いを促進しています。これにより、知識の定着や能動的な学習態度が育まれるだけでなく、TA・SA・CS自身の学習も深化し、大学生活や将来のキャリアデザイン、就職活動に役立てることができそうです。

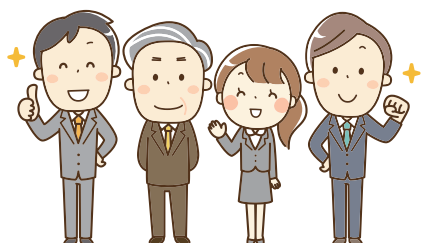


【2025年度の主なFD活動】

教員表彰制度「FIT教育賞」

2024年度より、大学全体での新たな教員表彰制度として「FIT教育賞」を開始しました。従来学部単位で行われていた教員表彰を全学的に見直し、教育力の維持・向上を目的としています。教育活動に熱心に取り組み、教育改善に貢献した教員を表彰し、その功績とグッドプラクティスを学内で共有することで、教育力の向上につなげることを目指しています。表彰は「グッドプラクティス部門」（個人表彰）、「グッドカリキュラム部門」（学科単位で表彰）、「実践力育成部門」（チーム表彰）の3部門で構成され、初年度は、「グッドプラクティス部門」および「実践力育成部門」について、学生および教職員による推薦（自薦・他薦）に基づいて実施しています。

テーマおよび受賞者と推薦理由は以下の通りです。



【グッドプラクティス部門】

テーマ・受賞者	本年度選定された取組の推薦理由
学生の主体性を促す工夫の実施 情報工学科 正代 隆義 教授	授業において、学生の考える力を引き出す工夫や、丁寧でわかりやすい授業解説、課題やテストの実施とその振り返りを通じて、学生の学びへの意欲を高める取組を行った。
教育手法のDX 推進 電気工学科 北崎 訓 准教授	授業でのe-learning の活用により、学生は効率的かつ主体的に学習でき、知識の定着にもつながっている。また、学習状況の可視化やメタ認知の取組が授業改善にも貢献した。
社会とのつながりを育む教育活動 情報マネジメント学科 木村 富也 准教授	授業に企業講話や進路指導を取り入れ、学生が将来を具体的に考えるきっかけを得ている。さらに、PBL やグローバル教育の推進により、学生の主体性やグローバルマインドセットの育成に貢献した。

【実践力育成部門】

テーマ・受賞者	本年度選定された取組の推薦理由
明新科技大学研修プログラム 電子情報工学科 松木 裕二 教授	半導体技術の学習と現地（台湾）での異文化交流を通じて、学生は国際的視野と技術者としての具体的なイメージを獲得。実践的な経験が将来のキャリア形成に直結する取組を行った。

新任教員FD研修会

4月4日（金）「新任教員FD研修会」を開催いたしました。本研修は新任教員を対象に着任時研修として対面形式で実施し、併せて教職員15名が参加しました。本学の新任教員 FD 研修は、教員の世代交代を背景として、組織文化の継承を目的に2013年度から開始し、その後、AL型授業の全学展開やアセスメントプラン本導入による質保証の取組み推進などの教育改革の方向性に合わせ、プログラムを改善しながら継続しています。また、8月27日（水）、

「新任教員フォローアップ研修会」を開催いたしました。本研修は新任教員（主に1～3年目）を対象に、前期の教育活動の振り返りを通して、現状の課題などを共有し、本学教員としての心構えを持ち、本学での考え方を理解した上で後期の教育に取り組むことができるようにすることを目的として開催しました。



教学マネジメント委員意見交換会

10月29日（水）2025年度「教学マネジメント委員意見交換会」を開催し、教職員20名が参加しました。本意見交換会は、評価・推進部会構成員（教学マネジメント委員および教学マネジメント部門員）を対象とし、所属組織を越えて、本学に必要な教育改善について意見交換を行うことにより、課題に対する認識共有を図り、効果的なFD 活動につなげることを目的として開催されたものです。今年度は①データで見る福工大生の姿、②14週授業の在り方についての2つのテーマに分かれて意見交換や情報共有が行われました。



教養力育成センターFD研修会

12月17日（水）「生成AIの教育活用について」をテーマに教養力育成センターFD研修会を開催し、教養力育成センター教員13名を含む計32名が参加しました。

今回のFD研修会では、九州大学 未来人材育成機構 長沼祥太郎准教授を講師にお招きし、大学における教育・学習の中でどのように生成AIを利用できるか、またAIと教養教育の今後の展望について、ご講演いただきました。



7月25日（金）第38回FD Café「2024年度FIT教育賞受賞者報告会」をE棟3F FDセミナー室にて開催いたしました。

今回のFD Caféは、教職員56名が参加し、2024年度FIT教育賞受賞者の4名の先生（情報工学科 正代教授、情報マネジメント学科 木村准教授、電気工学科 北崎准教授、電子情報工学科 松木教授）から授業や取組における工夫や課題について発表頂き、参加した教職員と意見交換を行いました。



9月17日（水）「カリキュラムをマネジメントする～学部学科全体での『カリキュラム』の視点から～」をテーマに、第39回FD CaféをE棟2階会議室にて開催しました。今回は、河本達毅氏（学校法人桐蔭学園 桐蔭横浜大学 副学長／事務局長）を講師にお迎えし、教員個々の「授業科目」という視点にとどまらず、3つのポリシーの点検を起点として科目間の連携性を高め、学部・学科が一体となったカリキュラム改善をどのように進めていくかについて、具体的なヒントを共有することを目的に実施しました。当日は、本学教職員64名が参加しました。

当日は河本氏より、「学生の学びと成長のために」と題し、「Hot Topics in Higher Education」「Management of Teaching and Learning」「Student-centered University」の3つの話題を中心に、ご講演いただきました。



9月19日（金）「大学におけるつながりについて考えよう！」をテーマに、第40回FD CaféをE棟3F R1にて教職学で開催いたしました。教職学でのFD Caféは、教員と学生が意見交換を通してお互いの理解を深め、全学的な授業改善につなげることを目的に開催しています。今回のFD Caféでは、学生27名、教職員21名、計48名が参加し、大学における“つながり”に関して、学生の声から見える現状と課題、つながりに必要な要素や得られる効果などについて共に考えました。プログラムは、学生FD FIT-joinが前期に実施した学生アンケートの報告を行い、情報通信工学科の松尾慶太教授のファシリテーションによるグループワークでは、大学におけるつながりをテーマにグループワークを行い、各グループのまとめを発表しました。



10月24日（金）E棟3階FDセミナー室にて第41回FD Café「スタートアップから教育・研究を考える」を開催し、教職員22名、大学院生2名の計24名が参加しました。講師には株式会社産学連携研究所 代表取締役・隅田剣生氏を迎え、①アントレプレナーシップ教育、②研究成果の社会実装、③スタートアップ創出について講演が行われました。隅田氏は、本学の建学の精神が社会実装を重視している点に触れ、小学校での起業家教育や他大学の取り組みを紹介し、若年層からの教育の重要性を指摘されました。研究成果の社会実装では、従来主流であった共同研究に加え、近年はスタートアップの割合が増加していること、また社会実装研究は大学以外で行う意義にも言及しました。さらに、スタートアップでは研究者がCEOを務める例は少なく、経営人材とのチーム構築が重要であること、創出活動は研究テーマ形成や共同研究の契機となること

が示されました。



2月13日（金）本学E棟2階会議室（対面およびオンライン）にて、第42回FD Café「多様性で広がる工学教育」を開催し、教職員他計73名が参加しました。講師には、九州大学男女共同参画推進室教授の河野銀子氏（教育社会学）を招きで講演いただきました。

河野教授はこれまで、中学生の理科学習・理系進路選択のジェンダー分析、女性研究者支援政策、ジェンダーと科学技術政策の国際比較などに関する研究を展開してこられました。講演では、近年「理系女性を増やす」機運が高まっている背景として、SDGsをはじめとする国際的なジェンダー平等推進、多様性によるイノベーション効果、人口縮小社会における人材確保の重要性などが紹介されました。



■教育開発推進機構オリジナルサイト
<https://oped.fit.ac.jp/>

本学の教育活動を広く公開することを目的にオリジナルサイトを開設しています。本 NewsLetter 掲載の各活動の詳細も記載しております。また、学内教職員専用ページでは、メールや会議文書等で個別に周知・ご案内の情報を集約し、必要な時に必要な情報にすぐにアクセス頂けるページとなっています。教育開発 Summary Report のバックナンバーも掲載していますので、是非ご利用ください。



■刊行物 <https://oped.fit.ac.jp/html/public/>
★FD Annual Report

福岡工業大学「FD Annual Report」では、本学における日常の教育実践の他、授業方法の改善全般に関わる論文および実践報告等を掲載し、学内の FD 推進の意識向上を図ることを目的としています。投稿文はオリジナルサイトまたは福岡工業大学機関リポジトリ <https://fit.repo.nii.ac.jp/> 紀要・部局刊行物 > FD Annual Report からご覧ください。

★NEWS LETTER

「NEWS LETTER」では、福岡工業大学教育開発推進機構の取組を紹介しています。バックナンバーは上記オリジナルサイトからご覧ください。

